

阪神・淡路大震災から20年、世界と防災に取り組む

01



国内外の防災関連機関が集積する神戸市東部新都心「HAT神戸」

1月17日で阪神・淡路大震災から丸20年が経過しました。JICAはこの震災の教訓を世界と共有するため、2007年に兵庫県と共同で「国際防災研修センター(DRLC)」を設立し、これまで延べ10000人以上、2000人以上に研修を通して教訓を伝えてきました。

17日、神戸市内では「国際防災・人道支援フォーラム2015」が開かれ、田中明彦JICA理事長が防災分野のJICAの取り組みを紹介するとともに、開発のあらゆる側面に防災の支援を組み込む「防災の主流化」を推進していることについて言及しました。また05年の第2回国連防災世界会議で採択された国際社会における防災の指針「兵庫行動枠組(HFA)」のこれまでの成果や、3月に仙台で行われる第3回国連防災世界会議で採択予定のHFA後継枠組に対する提案などについて議論が交わされました。



各国代表が発表する防災の取り組みに聞き入るJICAの帰国研修員

18日には、JICAが公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構と兵庫県と共催で「阪神・淡路大震災復興20年特別シンポジウム」を開催し、田中理事長の基調講演の他、DRLCの研修を受けた帰国研修員が、研修で学んだ日本の防災の知見を現地でどう生かしているかを発表。兵庫県にある「人と防災未来センター」などをモデルにした防災館がトルコに設立された事例などが紹介されました。

続いて「国際協力を通じた防災人材の育成」をテーマに、防災分野の第一線で活躍する有識者、JICAの研究協力機関の代表によるパネルディスカッションが行われました。JICAの不破雅実地球環境部長は、04年のスマトラ沖大地震・インド洋津波の後、日本の支援でインドネシアやスリランカなどに設立された防災担当の省庁で帰国研修員が活躍している例を挙げ、「研修を通じて、途上国で多くの貴重な防災人材が育成されている」と語りました。

関西学院大学と連携し、スリランカの子どもたちを健康に

02



署名式に出席した関西学院大学の小菅正伸副学長とJICAの柳沢香枝理事

スリランカの子どもたちの体力向上、スポーツ活動の促進を目指して、1月26日にJICAと関西学院大学がボランティア事業に関する覚書を結びました。今後、スポーツに関する技能や知識が豊富な同大学の学生や職員をスリランカに派遣し、現地の教員と一緒に、体力増進運動や放課後のスポーツ活動を指導します。

体育の授業でも教室での座学が中心のスリランカでは、児童・生徒の運動不足が問題視されていて、教育省は2013年から体力増進プログラムに取り組んできました。

関西学院大学は、学生を対象にした国際教育プログラムを数多く実施している他、職員を青年海外協力隊員として派遣する制度を新設するなど、大学の国際化に力を入れています。今回の連携によって、スリランカの子どもたちの体力向上はもちろん、関西学院大学のグローバル人材の育成も期待されます。

「世界の笑顔のために」プログラム 物品募集中!

03



ケニアに贈られた野球道具を手に笑顔いっぱいの子どもたち

「もう使わないけど、まだ使えるかもしれない」。そんな物品が家に眠っていたら、「世界の笑顔のために」プログラムに参加してみませんか。

教育、福祉、スポーツ、日本文化などの分野で、開発途上国が必要としている物品を日本国内で募集し、JICAボランティアを通じて各国に届けるこのプログラム。個人はもちろん、学級活動の一環として、または企業や地域で集めるなど、参加の形はさまざまです。

鍵盤ハーモニカや書道用具、スポーツ用品など、あなたの身近にあるものが国際協力の一歩になるかもしれません。たくさんのご応募をお待ちしています。

【参加申込書受付期間】4月1日(水)～5月15日(金)

【問】青年海外協力隊事務局「世界の笑顔のために」プログラム係  
 【TEL】03-5226-9196  
 【URL】www.jica.go.jp/partner/smile/